



クマ君とリス君はとっても仲良し。きょうも二人で仲良く遊んでいました。
 「ねえねえクマ君、今日は何してあそぶ？」
 「う～ん。どうしよう。僕は鬼ごっこがしたいなあ」
 「じゃあそうしよっか」
 二人は仲良く遊んでいました。
 すると、そこへミウさぎちゃんがやって来ました。



「ねえねえ。二人とも何してるの？」
 「あつ。うさぎちゃんだあ。僕達今ね、鬼ごっこしてたんだ」
 「うさぎちゃんも一緒にやらない？」
 「う～んどうしようかなあ。それよりね、これ見て！」
 「わあ。サツマイモだあ。うさぎちゃん、どうしたの？」
 「おばあちゃんにもらったんだあ」
 「いいなあ～」
 「いっぱいあるから、みんなにも分けてあげるね」
 「ヤッター。ありがとう。うさぎちゃん」



「ねえ、サツマイモってどうやって食べるの？」
 「クマ君、知らないの？サツマイモはね、焼いて食べるんだよ」
 「そうだ！焼いもってすごくおいしいんだよ」
 「何？それ？」
 「落ち葉をいっぱい集めてサツマイモを入れて、火をつけるんだよ。そして、焼いたら食べるの」
 「おいしそう。僕、食べてみたいな」

小松市立板津中学校



「みんなで食べようよ」
 「じゃあ、僕はマッチを持ってくるから、リス君とうさぎちゃんは落ち葉を集めてきてね」
 「でも、子供だけで火遊びしたらダメってママが言った」
 「だいじょうぶだよ」
 「それに遊ぶじゃなくてサツマイモを少し焼くだけだし」
 「そっか。少しだけなら大丈夫だね」
 「そうだよ。火が大きくならないように見張ってればいいんだから」
 「じゃあ、材料を集めよう」
 みんなは、材料を集めに行って、また戻ってきました。



「落ち葉をたくさん拾ってきたよ」
 「すごいでしょ」
 「すごいね。僕はちゃんとマッチを持ってきたよ！」
 「じゃあ、落ち葉とサツマイモを地面に置いて…」
 「よしっ、じゃあクマ君火をつけて！」
 「ちょっと恐いなあ」
 「クマ君、頑張っ！」
 「えいっ！」



”ポツ” 「やったあー。火がついた！」
 「おいしい焼きいもが出来るといいね」
 「うん！すごく楽しみ！」
 「焼けるまでかくれんぼしようよ」
 「いいよ。火が大きくならないかなあ」
 「大丈夫だよ。じゃあ、クマ君がオニだよ、うさぎちゃん早くかくれよう」
 「…うん…」
 「いーっち、にいーい、さあーん、しいー」
 みんなは、かくれんぼをして遊びました。
 すると、みるみるうちに火が大きくなります。大変です。
 でも、みんなは、かくれんぼをしているので気がつきません。



しばらくして、空で鳥さんが散歩していると何かに気がつきました。
 「おや？あれは何だ？…火だ。大変だ！火事だ！」
 鳥さんは、急いで火の近くにダレかいないか探しました。
 すると、…ダレかの声が聞こえてきました。
 「リス君、みいっけ！」
 「見つからないと思ったのになあ」
 クマ君達に気づいた鳥さんは、おおきな声で言いました。
 「クマ君達、何してるの？火事だよ！はやく逃げて！」
 「えっ！もしかして、僕達の焼いも？」
 「もしかして、子供だけで火を使ってたの？」
 「みんな、あれを見て！」
 うさぎちゃんに言われて振り向くと…

小松市立板津中学校



「うわあー」
 そこには、大きな火がゴオーっと燃えていました。
 「早く火を消さなきゃ！ 僕、だれか大人の人をよんでくる
 ね」
 鳥さんは急いで飛んで行きました。
 「どうしよう」
 「パパにおこられちゃう」
 「ママー、怖いよう」
 「うえーん、うえーん」
 3匹は、泣き出してしまいました。
 そのころ、鳥さんはクマ君のパパとうさぎちゃんのママを
 見つけました。



「たいへんだー」
 すごいスピードで、鳥さんが飛んできました。
 「鳥さん、どうしたんだい？」
 「クマ君達が焼きいもを作ってたら、火事になったんだ！
 早く来て下さい！」
 「たいへんだわ！ 早く行きましょう」
 「はい。急ぎましょう」
 クマ君のパパと、うさぎちゃんのママは、ホースとバケツ
 を持って、火事のところに行きました。



クマ君のパパ達は、やっと火事の所につきました。
 「おい。みんな大丈夫か？」
 「みんなで火を消すから、バケツに水をくんできて」
 「でも・・・」
 「みんな、はやく！」
 「分かった。みんな、はやく！」
 水をバケツに入れて、たくさん火にかけました。
 クマ君のパパは、ホースを使って、水をかけます。
 みんなは、火を消すために、頑張って水をかけました。



そして、「ジュー」っという音がして、火が消えました。
 みんなは喜びました。
 「やったー。火がなくなった」
 「バンザーイ。バンザーイ」
 みんなで、バンザイをしました。
 すると、クマ君のパパが言いました。
 「みんなに話があるんだが、ちゃんと聞いてくれ」
 「大事なお話だから、よく聞いてね」
 みんなは、なにを言われるのか分かりました。

小松市立板津中学校



「今日、みんなは、子供達だけで火を使ったね」
「パパ、ごめんなさい」 みんなは、泣き出しました。
「火を使うときは、大人の人に言わなくちゃだめよ」
「うん」
「もう、絶対にしちゃだめよ！」
「うん。本当にゴメンなさい」
「約束だよ」
「私達、絶対に約束やぶりません」
「じゃあ、泣くのをやめて。今度の日曜日に、ママが
焼いもを作ってあげるわ」
みんなは、泣き止んで、叫びました。
「やったあー」



日曜日になりました。
みんなは、うさぎちゃんのママが焼いてくれた焼いもを
食べています。
「ママ、すごくおいしいよ」
「よかったわね」
「うさぎちゃんのママ、ありがとう」
「ありがとう」
「みんな、ちゃんと、あの約束守ってね」
「はい」

